アーカイブ新聞　（2015 年 2 月 26 日　第 778 号）

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員　中桐正夫

＊ゴーチェ子午環棟外壁の植物による痛み

ゴーチェ子午環棟は 2014 年 4 月に国の登録有形文化財になった。この建物が完成したのは 1924 年（大正 13 年）5 月 9 日である。ゴーチェ子午環は 1903 年（明治 36 年）にフランスで作られ、1904 年（明治 37 年）に輸入された。明治 37、38 年には日露戦争があった。ゴーチェ子午環が注文されたのは 1900 年（明治 33 年）であった。日露戦争勃発前に注文されたから購入できたと思われる。購入時の書類の綴りが残っている（写真 1）。フランスへの送金額は概算で 19999.386 円とある。1 フラン 38.7 銭であった。子午環本体価格は 15867 円とある。

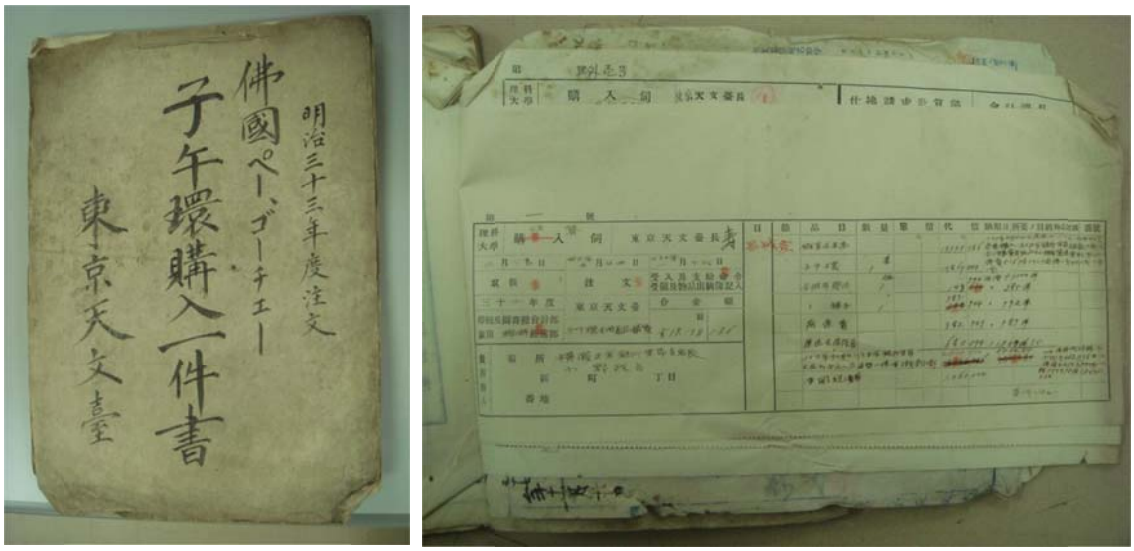

写真 1　ゴーチェ子午環購入時の書類

輸入された 1904 年、国立天文台の前身の一つである東京大学東京天文台は麻布区飯倉狸穴にあった。麻布の東京天文台の敷地は約 2500 坪、そのうち 900 坪は急峻な崖地でゴーチェ子午環を展開できなかった。ゴーチェ子午環は南北 250m、東西 60m ほどの敷地が必要であり、本格的な設置には広大な敷地が必要であった。しかし、日露戦争が勃発し、その莫大な戦費のため、日本は疲弊しており東京天文台の広大な土地への移転は難航し、現在の三鷹に土地が購入されたのは 1909 年（明治 42 年）であった。移転のための工事もなかなか始まらず移転工事が始まったのは 1914 年（大正 3 年）のことであった。最初の観測施設である太陽写真儀室が完成したのは 1920 年（大正 9 年）のことで、1921 年には第一赤道儀室、連合子午儀室、本館などが完成していった。移転工事の最中、1923 年（大正 12 年）9 月には関東大震災があり、麻布の天文台は大きな被害を受けたがゴーチェ子午環は展開できなかったため、その被害を免れた。大震災後、移転工事が急がれ、震災後の最初の観測

施設としてゴーチェ子午環室が建設されたのである（写真 2）。その後次々と天体写真儀室、卯酉儀室が建設されていった。

写真 2　1924 年に完成したゴーチェ子午環棟

ゴーチェ子午環は後継機として 1982 年に建設され、1984 年に本格観測が始まった自動光電子午環にその役目を譲ったが、光電マイクロメーターによる微光天体の位置観測などに使われ 2000 年頃までは観測に使われ、その後は観測に使われることはなく、2007 年には国立天文台常時公開拡大に伴い見学に供されていた。

このゴーチェ子午環棟は大正末期の建物として、また日本における天体観測の黎明期の建物として、その重要性が認められ 2014 年 4 月には南北の子午線標室と共に登録有形文化財となった。しかし、建物の維持管理は十分にはなされず、建物の外壁、扉開閉のためのレール辺りのコンクリートには雑木が生え、その根っこによる破壊が進みつつある（写真 3、4、5、6）。

写真 3

写真 4

写真 5

写真 6

今回、筆者はこれらコンクリートを破壊しつつある雑木を切り払ったが、使われなくなった観測施設の維持管理は難しいものがある。写真 7、8、9、10 はコンクリートを破壊している木々を切り払ったところである。

写真 7

写真 8

写真 9

写真 10

このようにひどい状態になる前に手を打たねばならなかったのは言うまでもない。遅きに失してはいるが、筆者はこのような活動も進め、ゴーチェ子午環棟に迫る真竹の伐採も進めている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp